

PubMed

COVID-19は、急速に進化している新しい状況です。
CDCから最新の公衆衛生情報を取得します：<https://www.coronavirus.gov>。
NIHから最新の調査を入手してください：<https://www.nih.gov/coronavirus>。

全文リンク

ELSEVIER
FULL-TEXT ARTICLE

フォーマット：アブストラクト

[Int Immunopharmacol.](#) 2007 9月; 7 (9) : 1211-20. Epub 2007 6月6日。

ローヤルゼリーから分離された脂肪酸は、in vitroで樹状細胞を介した免疫応答を調節します。

Vučević D¹、Melliou E、Vasilijic S、Gasic S、Ivanovski P、Chinou I、疔痛M。

著者情報

概要

ローヤルゼリー (RJ)、特にそのタンパク質成分は、免疫調節活性を有することが示されています。しかし、免疫系へのRJ脂肪酸の影響についてはほとんど何も知られていません。この研究では、RJから分離された10-ヒドロキシ-2-デカン酸 (10-HDA) と3,10-ジヒドロキシ-デカン酸 (3,10-DDA) のモデルの免疫応答への影響を調べましたラット樹状細胞 (DC) -T細胞共培養。高濃度の両方の脂肪酸は、同種T細胞の増殖を阻害しました。10-HDAの効果はより強く、続いてインターロイキン-2 (IL-2) 産生の減少とIL-2受容体発現のダウンレギュレーションが続きました。10マイクログラム/mlの脂肪酸で培養された脾臓DCは、CD86の発現とIL-12の産生をダウンレギュレートしましたが、IL-10の産生をアップレギュレートしました。対照的に、DC 100 microg/mlの3,10-DDAで前処理すると、CD86の発現がアップレギュレートされ、同種T細胞の増殖が促進されました。T細胞とDCの両方で非アポトーシス性である両方の脂肪酸の最高用量 (200 microg/ml) は、MHCクラスIIとCD86の発現をダウンレギュレートし、IL-12の産生を減少させ、これらのDCの同種刺激を少なくしました。3,10-DDAの免疫抑制活性は、ラットのKeyholeリンパ球ヘモシアニン予防接種のモデルを使用して、in vivoでも確認されました。結論として、私たちの結果はRJ脂肪酸の免疫調節活性を示し、DCがそれらの作用の重要な標的であることを示唆しています。T細胞とDCの両方で非アポトーシス性である両方の脂肪酸の最高用量 (200 microg/ml) は、MHCクラスIIとCD86の発現をダウンレギュレートし、IL-12の産生を減少させ、これらのDCの同種刺激を少なくしました。3,10-DDAの免疫抑制活性は、ラットのKeyholeリンパ球ヘモシアニン予防接種のモデルを使用して、in vivoでも確認されました。結論

として、私たちの結果はRJ脂肪酸の免疫調節活性を示し、DCがそれらの作用の重要な標的であることを示唆しています。

PMID : 17630200 DOI : [10.1016/j.intimp.2007.05.005](https://doi.org/10.1016/j.intimp.2007.05.005)

[MEDLINEのインデックス]

出版タイプ、MeSH用語、物質

LinkOut-その他のリソース